

目的 織物組織において三原組織から各種変化組織への誘導は大変に複雑であり、また組織図上での組織点の移動は煩雑で能率が悪い。そこでこれらの問題を解消する目的で小型汎用コンピュータとグラフィック機能を持たないVDT端末との組み合わせによって、各種織物組織の表示および基本組織から変化応用組織への展開が可能なるシステムを開発した。

方法

- ハードウェア ① 本体; HITAC L-340 システム (1MB)
② VDT; T560/20 10台
- ソフトウェア ① アセンブラ; 入力と表示ルーチン
② FORTRAN; 変化組織計算ルーチン

システムフローの概略を図1に示す。

端末ユーザーは変化操作パラメータをキーボードより入力することにより即座に結果(変化組織)をVDT画面で確認することができ、必要な時はプリントアウトも可能である。

結果 VDTのハードウェア上の問題から基本組織の大きさが20×20以内に制限されるが、それ以内の織物組織であれば、ほとんどの変化操作が可能となった。

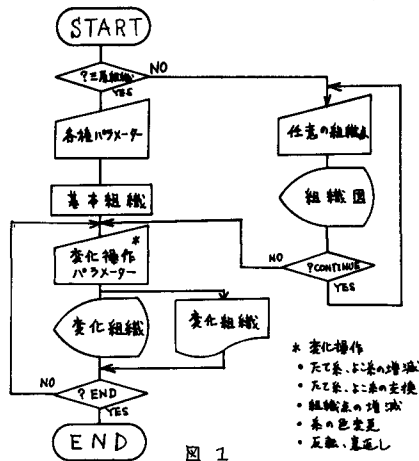


図 1